学校法人 内田学園　　七沢希望の丘初等学校

ぼちぼちいこか

学校だより１２月号　　2023.11.30 発行

教育理念
生きる喜びを抱き
自ら学びを拓く

特異な歴史と文化を学ぶ　～修学旅行を振り返って～

校　長　　大谷　京司

北海道博物館

南方からのナウマン象と、北方からのマンモス象が出会った地、北海道。本州からの影響と北の大陸からの影響によって独自の文化が生み出されました。

そうした中で、子どもたちが興味をもったのがアイヌ文化。私にとっては、ウポポイで食べたアイヌの伝統料理の１つ「チェプオハウ」がとにかくおいしくて、私の中ではアイヌ文化を身近に感じる第１のきっかけとなりました。これは、塩味のスープの中に、サケの切り身の他、じゃがいも、大根、人参、玉ねぎ、ごぼう、長ねぎなどの野菜がゴロゴロ入っていて、とにかく素材の味を優しく感じられる逸品でした。

チェプオハウ

今回の修学旅行ではウポポイ（民族共生象徴空間）や北海道博物館などで、多くのアイヌ文化に関する展示物を見たり、お話を伺ったりしましたが、人間と自然の関係について私自身も児童たちも強く意識させられたような気がします。

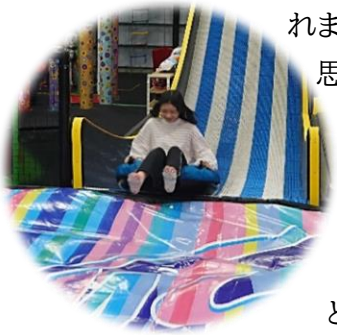
「アイヌ民族の信仰では、この世のあらゆるものに魂があると考えられています。中でも、動物や植物など人間に自然の恵みを与えてくれるもの、火や水、生活用具など暮らしに欠かせないもの、天候や伝染病など人間の力が及ばないものなどをカムイとして敬います。そして、この世界は人間とカムイとが関わり合い影響しあって成り立っていると考えられています（北海道博物館展示資料より引用）。」

子どもたちは自分の生活と自然の関係について改めて考え、夜の振り返りでは、このような考え方に基づくアイヌ文化について、少しでも理解したことを他の人にも伝えていきたいといった今回の修学旅行のテーマに迫る意見を述べていました。

さて、今回の修学旅行で最も人気のあった北海道限定の飲み物があります。ジンギスカン料理の際には、ほとんどの子がこれを飲み物に頼んでいました。お土産に数本買っていく子も。それは・・・・・ポッカサッポロの「ナポリン」です。

身も心も解放　JUMP JUMP JUMP!

11 月 22 日（水）遠足の午前中の訪問地は、相模原市のトランポリンパーク「Mr. JUMP」。館内に入ると色とりどりのトランポリンや滑り台、クライミングの高い壁など、子どもたちのチャレンジ精神をくすぐる遊具がたくさん。子どもたちは最初はおっかなびっくりで躊躇している姿も見られましたが、慣れてくると次から次へピョンピョン跳ねながら思い思いの遊具を楽しんでいました。



無理な力を入れなくても体を動かす楽しみを思う存分感じることができるトランポリンは、子どもたちの心も体も解放してくれるとても素晴らしい機会となりました。

今回の遠足は、4・5年生がグループのリーダーとして下級生を引っ張り、6 年生はそれをサポートするということで、この遠足を通して、リーダーの世代交代を図っていくということも大きな目的でした。

午後の訪問先の麻溝公園では、グループごとにふれあい動物広場をまわったり、フィールドアスレチックを体験したりしましたが、その時は、4・5 年生が下級生に声をかけたり、遅くなりかけた子を待ってあげたりする場面が印象的でした。

6年生も集合や次の指示の際など、さりげなく 4・5 年生をサポートして下級生を促してくれました。

行き・帰りのバスの中では、これもグループごとに 4・5 年生が中心となって考えたバスレクで大いに盛り上がりました。道中は思いのほか道路も混んでおり、時間がかかりましたが、各グループのバスレクで、あっという間に目的地に到着した感じでした。